

札幌芸術の森美術館コレクション選

新収蔵記念 山を立てる

札幌芸術の森美術館 B 展示室

2019年4月27日(土)～6月30日(日)

開館時間 午前9時45分～午後5時

(ただし6月は午後5時30分まで開館、入場は閉館の30分前まで)

観覧無料



舟越桂《山を立てる》2001年、楠に彩色、大理石、鉄、ワイヤー

日本を代表する具象彫刻家・舟越桂(1951-)は、1980年代より大理石の眼を持つ木彫の半身像に取り組み、国内外で高く評価されている。遠くを見つめる澄んだ眼差し、静謐で繊細な表情、独特の存在感で佇む姿が唯一無二の世界を展開している。

本展では平成30年度に新収蔵となった舟越桂《山を立てる》を展示する。舟越の作品をたどると、初期は着衣の人物像が中心だったが、次第に、双頭だったり、頭部と胴体の背腹が逆になったりと、人物像ではあるが異形性が加えられるようになった。本作はちょうど舟越の作品に異形性が現れた時期にシリーズ化された、胴体を山に見立てたものの一つである。

また同時期に制作された木彫作品《雪の上の影》や、舟越が制作において重視している素描、版画作品もあわせて展示することで、彼の創作世界を幅広く紹介する。



舟越桂《森の言葉》2001年、木版



舟越桂《静かな鏡よりステート1》1990年、ハードグラウンド



舟越桂《雪の上の影》2002年、楠に彩色、大理石
撮影：前澤良彰